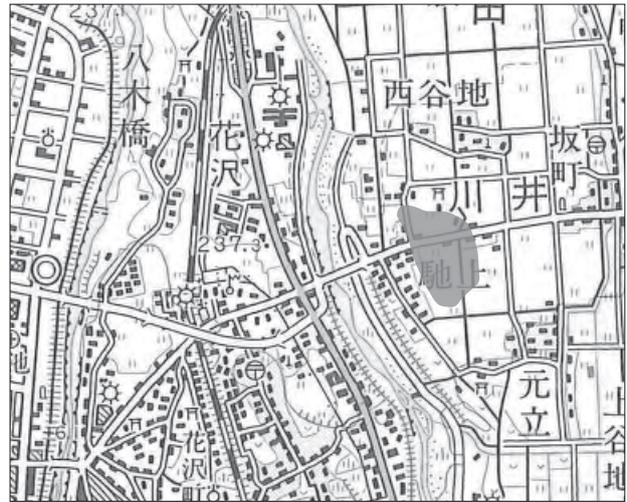


はせがみ 馳上遺跡 (第7次)

遺跡番号 202-560
調査回数 第7次
所在地 山形県米沢市大字川井字元立 1019-1 他
北緯・東経 37度55分21秒・140度8分13秒
調査委託者 米沢市産業部商工課
山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
起回事業 米沢市新道の駅よねざわ整備事業
主要地方道米沢高畠線 道の駅(川井) 工区
調査面積 680 m²
受託期間 平成27年10月1日～平成28年3月31日
現地調査 平成27年11月2日～20日
調査担当者 須賀井新人(現場責任者)・阿部明彦
調査協力 米沢市総務部財政課・米沢市建設部土木課・米沢市建設部都市計画課
米沢市教育委員会・山形県土整備部道路整備課・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・土坑・溝跡・柱穴
遺物 縄文土器・土師器・須恵器(文化財認定箱数:1箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

馳上遺跡はこれまで、主要地方道や東北中央道の建設を原因とした発掘調査が都合6次に亘って行われ、延べ35,200 m²が対象となった。今回の調査は、東北中央道のインターチェンジに隣接し、高速道から直接乗り入れが可能な道の駅整備事業に起因したものである。平成28年度に本格的な発掘調査を行うに当たり、21,600 m²の広範な事業範囲の遺構・遺物の有無や分布密度、遺構検出面までの深さ等を把握する目的から実施した予備的な発掘調査である。

調査方法は、事業区内に10×2 mのトレンチ30本を公共座標に沿って設定し、各トレンチにおける遺構・遺物の所在を確認した。遺構は検出段階に留め、包含層や検出面から出土した遺物の採取を行った。検出遺構の平面図と、表土から検出面までの断面図を作図し、順次写真撮影を行って記録した。

遺構と遺物

東西約270 mに及ぶ事業区は、南北方向の農道と用

水路により3区画に分けられる。東側区域は一部を除けば湿地状の泥炭質土もしくは砂礫層地帯であり、遺構・遺物とも確認されなかった。ただし、No.3トレンチにおいて表土下に遺物包含層が残存し、古墳時代の土師器が数個体出土した。このことから、包含層と遺物分布の広がりを探るためのトレンチ4本を追加して調査した結果、事業区内で約1,000 m²の範囲に及ぶことが確認された。特にNo.31・33トレンチからは縄文土器深鉢が押し潰された状態で出土しており、以前の調査で検出されなかった当該期の遺構の存在も期待される。

用水路以西では一転して遺構や遺物の分布が顕著となる。遺構は未確認ながら、厚さ30 cm前後の遺物包含層が堆積している事例や、表土直下の安定した地山層に溝跡や柱穴等が密集する事例が確認された。地山までの深さから旧地形が窺われ、遺構の密集域は元来、周辺に比べて高燥であったことが考えられる。堆積層から旧河道の存在も明らかになり、河岸段丘上の微高地を利用して集落が営まれ、遺跡が機能していた時期はかなり起伏に

富んだ地形であったものと思われる。

まとめ

今回の調査は来年度の本格的な発掘調査に先立ち、遺跡範囲の確認を主とした予備的調査として実施した。そ

の結果、地盤のしっかりした事業区の西側ほど遺構や遺物の分布が多く見られ、遺跡は地形的に安定した場所へ立地したと言える。また、事業区東端の一部でも遺物包含層の堆積が確認された。



図1 調査区概要図



写真1 調査風景（南東から）



写真2 No.27 トレンチ遺構検出状況（東から）



写真3 No.33 トレンチ出土縄文土器



写真4 No.21 トレンチ土器出土状況（東から）